

大学の世界展開力強化事業 H26取組概要 慶應義塾大学

【構想の名称】(選定年度24年度(申請区分(I)))

アジアの新出課題解決に向けたエビデンスベースドアプローチ大学コンソーシアム

【プログラムの目的・養成する人材像】

ASEAN共通課題である「健康・公衆衛生」「環境・エネルギー」「防災・セキュリティ」の分野において、課題先進国日本での知見を活かし、ASEAN地域の共通課題を、Resilience, Innovation and Sustainability に考慮して解決する、専門的なグローバル人材である“ASEAN EBA リーダー”を、日本とASEANが協力して育成する。

【構想の概要】

本構想におけるエビデンスベースドアプローチとは、様々な分野の課題解決プロセスにおいて、高度情報社会におけるビッグデータのグローバル基盤を活用し、データに基づいた事実分析と、その分析に基づいた正しい解決アプローチを設計し、実践する手法・考え方である。本構想では、EBAを中心に、専門教育とアプローチの実践力を、学部から、テーマとアプローチをクロスで教育する日・ASEAN7大学のコンソーシアムによる共同教育プログラムであるEBAコースを開発し、5年間で日・ASEAN180名の学生を受け入れ、プログラムの一環として、延べ420名の学生交流(派遣/受入)を実現する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

- EBAプログラムのデザイン

パートナー大学との協同作業により、「コアコース」、「プラクティカルコース」「スペシャライズドコース」の科目や、単位数等を議論し、プログラム修了に必要なる要求事項等カリキュラムの大枠について議論をおこない、2月に実施したパートナー大学全体会議で合意した。

EBA Core Courses	Practical Courses	Specialized Courses
<ul style="list-style-type: none"> Knowledge Skills Governance Social Innovation Advanced IT 	<ul style="list-style-type: none"> Internship Fieldwork (short- and long-terms) Supporting Subjects Language, Culture of ASEAN and Japan 	<ul style="list-style-type: none"> Energy and Environment Health Environment Disaster and Security

- 各種ガイドラインによるアクティビティのパッケージ化

各大学がホストとなって実施するフィールドワークやインターンシップ等のアクティビティの品質向上のため、授業時間、EBAの目指すデータサイエンスのアプローチ、現地語でのコミュニケーション能力等、事前や事後ワークショップも含めたガイドラインを策定しパッケージ化した。事前事後のワークショップのコンテンツを定めるだけでなく、国や大学毎に異なる学事日程なども踏まえたスケジューリング等ロジスティクス面フィールドワークの企画運営に用いることで、各大学が主体となって取り組みを行っている。

■ 交流プログラムの内容、今後の開始に向けた準備状況

- オープンセミナーとコーディネーター会議の実施

月例でおこなわれるオープンセミナーにおいて、ASEAN地域に分散する大学の教員とEBAプログラム参加学生間で情報共有と議論を続けている。

コーディネーター会議では、フィールドワークやインターンシッププログラム等全大学が共有する科目の計画や今後の事業推進に関する意思決定を行っている。

- EBAコンポーネントサーティフィケートの発行

EBAプログラム関連科目を履修した受講者のうち、授業担当者が一定基準を満たしたと判断した受講者にEBAコンポーネントサーティフィケートを発行した。H26年度は124人に192通を発行した。所定のコンポーネントサーティフィケート取得した者は、次年度以降EBAプログラムサーティフィケートを取得し修了できる。



■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

- フィールドワークインターンシッププログラムの実施

本事業では学生のモビリティを、10日間程度で実施されるフィールドワークプログラムや、数ヶ月単位で実施するインターンシッププログラムにより実現している。また事前と事後のワークショップにより、現地語コミュニケーション能力やEBAアプローチを学び効果を高めている。

- 日本人学生の派遣

平成26年度は、日本人学生を派遣する環境分野のフィールドワークをフィリピンで実施した。慶應義塾大学とフィリピン大学の共催という形で開催し、次年度以降、各パートナー大学と同様のフィールドワークを定期的に開催する。また日本人学生のASEAN地域でのインターンシップも検討中である。

- 外国人留学生の受入れ

平成26年度は、防災・セキュリティ(三陸)・健康・環境(水俣)・環境・エネルギー(富士吉田)の各分野のフィールドワークと日本企業へのインターンシップを通じて合計42名の学生をパートナー大学より受け入れた。

	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	7	14	4	65	70
学生の受入	4	19	42	65	65

注)H24-H26は実績、H27以降は計画

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

- 協定学生制度

学期や年度単位ではなく、フィールドワーク等の短期間の訪問を可能にする制度を慶應義塾大学内に制定した。これによりビザ発給時の身分などが明らかとなりスムーズな手続きが可能となった。

- 学内説明会の拡充

パートナー大学と共同でおこなうオープンセミナーだけでなく、学内におけるプログラムの認知度を向上と派遣学生数の増加のため、各キャンパスでのEBA説明会やフィールドワークの説明会を開催し本事業に関する情報発信を行っている。

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開・成果の普及

- 協定学生制度の学内への波及

本事業により制定された協定学生制度は、慶應義塾大学において他の国際連携事業においても活用されており、H27年6月末現在で61人の受入れ実績があった。

- Webを通じた情報発信

オフィシャルページ(<http://www.eba-consortium.asia/>)、Facebookページ(<https://www.facebook.com/EBAConsortium>)を通じ、プログラムの内容や募集情報だけでなく実施中のフィールドワークの様子などを情報発信と共有に努めている。